

様式第2号（第5条関係）

平成27年 10月16日

出張報告書

栗山町議会議長 鶴川和彦様

栗山町議会議員

土井 道子



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

1 期 日 平成27年 8月 30～ 31日（2日間）

2 旅行先 滋賀県大津市

3 目 的 「平成27年度市町村議会議員研修—自治体予算を考える」研修のため

4 関係書類 別紙の通り



日 程	平成27年8月30日（日）～8月31日（月）
研修先	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所
研修名	自治体の予算を考える
講 師	緒方 俊則 氏（地方公務員災害補償基金理事）
1. 研修目的	●自治体予算の原則・制度、歳入・歳出予算の基本的事項について学ぶ ●基本的事項のチェックポイントや財政運営の監視方法を知る ●制度改革の動向や今後の財政運方策などについて理解する
2. 研修内容	予算の意義 予算とは会計年度（4月1日～翌年3月31日）の歳入と歳出の見積もりである。 ①自治体の行政がどのように行われるかを具体的に表現した一覧表 ②住民を代表して議会が首長をコントロールする手段 ③予算を通じて首長が自治体組織をコントロール ④住民に情報提供、納めた税金がどのように使われ、効果的に還元されるかを判断する基礎 予算の編成から成立・執行 当初予算は、約半年かけて自治体の全組織を挙げて作成され、首長により予算査定を経て予算案ができあがる。 その後首長が予算案を議会に提案、議会が審議して可決されると予算は成立する。 予算全体のチェックポイント 1. 予算全体への視点 ① 予算規模（全体の俯瞰図を得る） ② 財源不足の発生の有無 ③一般財源の確保の状況（使途の特定がない財源、税や地方交付税など） 2. 健全な財政運営の視点 ① 将来の財政負担の見通しと抑制 ② 義務的経費の状況 ③ 基金の積立・取崩しの状況 ④ 革の推進

3. 主な意見 交換	●類似事業・施設、コストバランスなどを評価し結果を予算に反映させる仕組みはあるものの、効果的に機能していない。 ●決算委員会を立ち上げておらず、決算委員会を立ち上げている議会の成果をこの機会に知っておきたい ●決算と予算のどちらを重視したらよいかが見極められない ●検証する中で予算に充分反映される答弁が行政から少ない ●合併特例債の期限切れの対応が説明されていない など大多数の議員が議会組織や行政との審議がスムーズに運ばない状況を発表し合った。
3 課題（感想）など	この研修会には 新人から数期の議員を務めているベテランまで北海道から九州までの70人の議員が参加していた。また参加者の多くは、関東以南の自治体議員が多く、また同じ自治体から2名以上の参加もあり政務活動費を活用して研修するのが当然という雰囲気があった。 参加者の中には、他の議員研修会で栗山町が全国で最初に議会基本条例を制定したことを紹介された議員がいて、私が栗山町議会と名乗ったら注目され緊張してしまった。 今回の研修では、予算の種類としくみが解説され、住民が幸福で暮らしやすい文化都市と感じられるように、予算を的確に審議して住民へ納得でき分かりやすい説明ができるよう努めていくことが、議員の重要な任務であるとあらためて認識した。